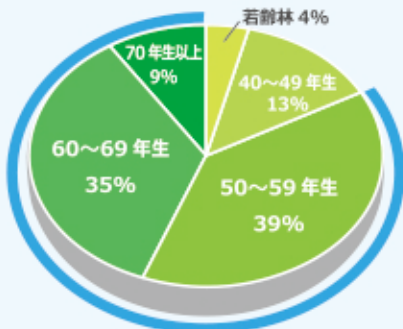


伐採時期を迎えているカラマツ林

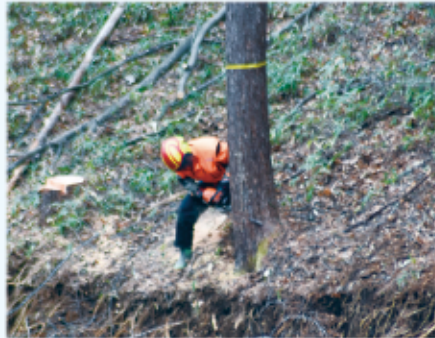
戦後の拡大造林期に植栽されたカラマツの多くは、胸高直径 40～50 cm 程度に成長しており、条件の整った場所は「主伐（木材の収穫）と再造林（新たなカラマツの植え付け）」を進めていくことが重要です。

胸高直径が 40～50 cm を超えた木材は、建築用材や構造用合板としての利用価値が高く、小諸市にある東信木材センター協同組合連合会でも高値で取引されています。

■林齢別カラマツ林面積（人工林）



50 年生以上が 8 割以上を占める



東信木材センター協同組合連合会

(R 元年 12 月 カラマツ材 参考価格)

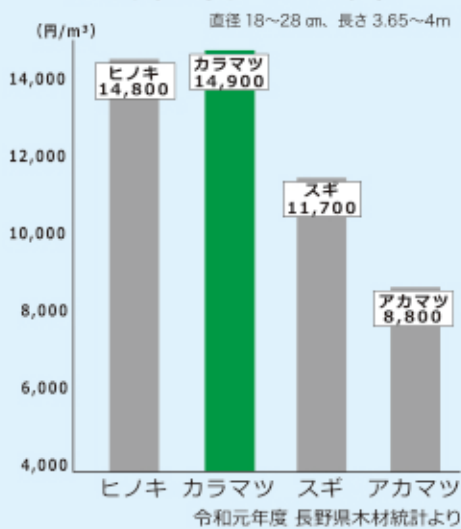
規格	直径 (cm)	長さ (m)	価格 (円 / m)	備考
直材	14～16	4.0	9,000～13,000	製材用
直材	18 上	4.0	10,000～16,000	〃
曲り	14～18	4.0	6,000～9,000	合板用
曲り	20～40	4.0	13,000～15,000	〃
曲り	40～48	4.0	14,000～18,000	〃

長野県の木材市況 (R 元年 12 月)

規格	価格 (円 / m)	備考
針葉樹バルブ材	4,500	
広葉樹バルブ材	4,500	

カラマツ材は安くない 貴重な資源

■長野県の木材（素材）価格



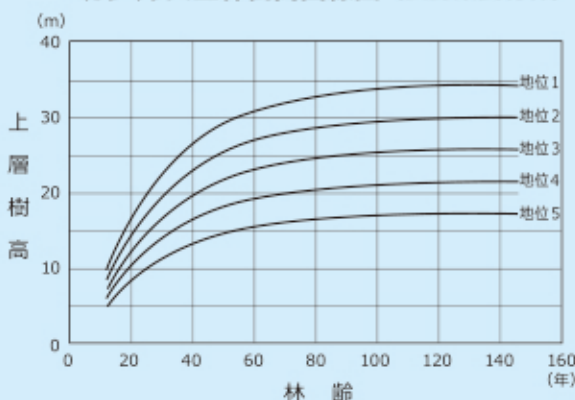
ヒノキは高級でカラマツは安いと思いませんか？

カラマツ材の価格は、県内の主要 4 樹種と比較すると左表のとおりで、需給状況で変化するものの近年は安定若しくはやや上昇傾向で流通しています。

カラマツは、スギ、ヒノキと比べて木材の強度が高く、また乾燥技術の開発などにより、建築用材から構造用合板、土木用資材、木材チップなど用途が広がりました。更に近年は構造用合板の需要が大幅に増加していることにより、価格が安定していると考えられます。また、カラマツは寒冷地に適する樹木で、北海道、岩手県、長野県など産地が一部に限られており、競合する地域が少ないことが、大きな利点となっています。

収穫の適期を見逃さない

■カラマツ人工林樹高曲線図（長野県民有林）



- 樹高曲線 -

土地の豊かさ（地位）別の、林齢と樹高の相関曲線

※地位 1 が最も成長が優れる

一般的には、カラマツを含め植栽された木の多くは、60 年生を超えると伸長生長が鈍くなり、80～100 年位では、伸びは殆どなくなります。高齢級なカラマツ材でも高値で扱われるものは、通直で曲がりやが少なく、芯が中心にある形質の良いものに限られます。間伐などの手入れの仕方やその混み具合、キズの有無などから、伐り匂を見逃さないことが大切です。



拡大写真

- 良質材の条件 -

年輪：芯が中心にあり年輪幅が均等で正円
形質：長さ方向に曲がりや太さの差が少ない